



◀ 全国大会に向けた練習合間の梶原さん親子
(9月6日、体育センターで)

全日本折り紙ヒコーキ大会で実力発揮

紙ヒコーキを楽しむ梶原さん親子が準優勝

西多久町の梶原隆徳さん、真由美さん、雅貴君の親子が9月19日、千葉県の幕張メッセで行われた『全日本折り紙ヒコーキ大会』に出場し、準優勝を獲得されました。

この大会は、将来のモノづくり人材が育つ環境整備の一助を図る目的に行われており、昔遊びで、特に誰しも一度は、体験したことのある折り紙ヒコーキの地区予選を制した強者が集まった大会。梶原さん親子も九州予選で好成績を残し、全国大会へのキップを手に入れました。

自己記録更新に向け、練習を重ねた親子は、室内滞空時間を競う3人一組の競技部門に初挑戦。協会認定のA5サイズの競技用紙をその場で折ったヒコーキで、折り方や飛ばし方のコツを最大限に発揮し、決勝まで進みました。ホームページで紹介されるランキング上位も目指される隆徳さんは、「親子で遊びながらいつでもできるので、3年ほど前から挑戦しています。力をあわせた記録が結果につながり、嬉しいの一言で、よき思い出になりました」と喜ばれ、絆をより深くされていました。

EMどろ団子1500個を河川などに投入

「大字別府を守る会」の環境にやさしいふる里づくり

よりよい農地や水資源を次世代につなぐ活動続ける『大字別府を守る会』は8月23日、東多久公民館で地域の婦人会や子どもたち約30人とEMどろ団子作りを行いました。

一週間ほど寝かせた29日には、各集落に配布し、ため池や河川に1500個を投入。この浄化運動は、「みんなで環境にやさしいふる里づくりに参加を！」と呼びかけ、地域をあげて行っているものです。初めて投入した4月から3か月後には、水が澄み切って底が分かるようになった防火水槽があったり、悪臭が消えたり、効果が確認されています。

これに合わせ、「蛍光剤・漂白剤無配合洗剤を各家庭でも！」と、環境にやさしい石けん愛用運動もしており、8月に「トロトロせっけん」を約1400の全戸に配布。代表の中村忠さんは、「河川や水路などの清掃や遊休農地に花を植えるなど活動を始め3年目。年々の活動や他地区との連携も功を奏しているので、安全安心でおいしい農畜産物が育つ環境を守り続けたい」と、継続した活動に意欲的です。



▲東多久公民館で行われたEMどろ団子作り

思い出いっぱい！ タイムカプセルを開封

8/16

平成12年3月に南部小学校を卒業したみなさんが、大坪里美さんらの呼びかけで同校に集まり、10年前に校庭に埋めたタイムカプセルを開けました。中から出てきた子どもの頃の作文や思い出の品を手にとって当時を懐かしみ、近況報告に花を咲かせました。参加した川島大幸さんは「僕は多久で働いています。みなさんもぜひ多久に帰ってきてください」と同窓生に呼びかけていました。



黒岩さんと田中さんが バドミントン全国大会で ベスト5に入る

8/14

8/15

熊本県八代市で開かれた第10回全国小学生バドミントンABC大会で、黒岩はるなさん(東部小4年・右)と田中果帆さん(北部小2年)がそれぞれの部門で5位に入賞しました。田中さんは「全国大会に初出場でき嬉しかったけど、準々決勝で負けて悔しかった」黒岩さんは「緊張したけど、思いきり動いて声を出し、頑張れて良かった」と話し、バドミントン部のメンバー11組が出場する10月末の次大会も「メンバーと一緒に全国大会に勝ち進みたい」と練習に励んでいます。

